

社外の方からの評価

第三者意見

選ばれ続ける電力会社であるために

今回の報告書は「九州電力の思い」をわかりやすく伝えるために、文章の簡素化、図形化など細やかな工夫とともにまとめられています。2016年4月からの電力小売の全面自由化とともに消費者に信頼され選ばれる企業であるために、CSR経営に向けての覚悟さえ感じました。消費者が求めるもの、それは安定した電力の供給はもちろんのこと、安心、安全な社会の実現です。消費者の信頼に応えられる企業の歩みはCSRの具体的な取り組みの中にみられます。その観点からこの報告書を読みました。

<評価すること>

CSR重点項目として「お客さま満足の創造」を新設

最も注目したのは、CSRの重点項目として「お客さま満足の創造」が方針のトップにあげられていることです(P21～30)。今回の熊本大地震など大災害時における対応をはじめ、さまざまな場でのニーズや「声」に真摯に向かおうとする姿勢がみられます。今後、多様なサービスの充実や提供に期待しています。

CSR基本方針(行動憲章)の改正

今回は「九州電力グループ行動憲章」を「九州電力グループCSR憲章」とし、あらゆる人びとや社会変化に対応したCSRの取り組みを徹底することがうたわれています(P6)。「九州電力の思い」を形にすることで消費者の納得や信頼が得られることとなります。課題解決に向けたグループ全体のこれからの「動き」は社会全体が見つめるところです。

「九電みらい財団」の設立

CSRの新たな取り組みとして、環境活動と次世代育成支援活動を行う「九電みらい財団」の設立に希望を感じました(P90～91)。CO₂排出という課題を抱える電力会社の責務としての環境保全活動、未来を担う次世代育成のためのサポートは九州における重要な取り組みになるはずで

<今後への期待>

何よりも国民の大きな不安材料のひとつである原子力発電への「声」に応え続けることです。東日本大震災以降膨らんだ原子力への不安や疑問、その課題と共に歩むための地道で丁寧なコミュニケーション活動が求められます。

さらに、ダイバーシティ推進への動きに期待しています。国の女性活躍推進法を受けて数値目標を掲げ進もうとする動きの中で、女性管理職の新規登用を2倍にするという目標が掲げられており(P101)、九州のモデル企業としてその実現に期待しています。しかし、女性のみならず男性を含めさまざまな人びとがモチベーションアップして働くことのできる企業風土の醸成が何よりも求められます。

この報告書の中に、社員の方々の「思い」が具体的に述べられていて、それはほっとする頁でした。「思い」を共有し、「声」にしな

ら進んでいくことが大切です。消費者の「声」に深く耳を傾け、共に、よい社会づくりのために歩んで下さい。「やっぱり」「なるほど」という信頼構築のための風通しのよいコミュニケーションの場が数多く持たれることを期待しています。

大野城まどかびあ館長

はやしだ
林田 スマ氏



第三者意見を受けて

CSR報告書の信頼性を高めることや、取組みを充実させていくため、大野城まどかびあ館長の林田様に客観的な立場からご意見をいただきました。

当社グループは、お客さまをはじめ皆さまとの信頼関係をより強固にしていくため、CSR基本方針を改正するとともに、CSR重点項目の新設を行いました。今後、この考えの下、CSRの取組みをより一層充実させていきます。また、今般設立した「九電みらい財団」においては、九州地域で事業を行う企業として、地域の発展に貢献し続ける活動を展開していきます。

今後の期待としてご意見をいただいた原子力発電の不安への対応につきましては、地域の皆さまの不安や疑問の声を丁寧にお聴きするコミュニケーション活動を積極的に、

声を会社全体で共有し、皆さまが安心していただける取組みにつなげていきます。また、ダイバーシティ推進にあたっては、女性の活躍だけでなく、経営環境の変化や新たなお客さまサービスの提供などに挑戦する組織風土の醸成や、人材の育成・登用にも取り組んでいきます。

当社グループは、今後とも、皆さまから信頼される企業を目指し、CSR経営の徹底を図ってまいります。

九州電力株式会社
代表取締役副社長 CSR担当

あらかし
荒牧 ともゆき
智之

